

《履修上の留意事項》公認心理師科目である。

《担当者名》野田 昌道 (soleil2n@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

パーソナリティ（人格、性格）は、臨床心理学のみならず、発達心理学や社会心理学、教育心理学など多くの領域で研究され、さまざまなとらえ方がなされている。「パーソナリティとは何か」という問いに対する答えも一つではない。しかし、心の健康や対人援助について考えるためには、さまざまな角度、視点から人間理解を試みる必要がある。本講義では、パーソナリティやパーソナリティの発達、適応、変化などに関する基本的な概念や理論について幅広く学んでいく。

【学修目標】

- パーソナリティ（人格、性格）研究に関する歴史や基礎的概念、理論を理解する。
- パーソナリティ（人格、性格）に関する複数の理論を学ぶことにより、人格人間理解のための視点を豊かにする。
- パーソナリティ（人格、性格）の概念及び形成過程について概説できる。
- パーソナリティ（人格、性格）の類型、特性等について概説できる。
- パーソナリティ（人格、性格）の諸理論の探求を通して、自己理解を深める。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|--------------------------|--|-------|
| 1 | パーソナリティ心理学の歴史と概要 | パーソナリティの定義や理解のための視点を整理する。パーソナリティがどのように研究されてきたのか、その源流と発展について歴史的視点から理解する。 | 野田 昌道 |
| 2 | パーソナリティの類型論 | 主な類型論（クレッチマー、シェルダン、ユング等）について学び、類型論の短所と長所について理解する。 | 野田 昌道 |
| 3 | パーソナリティの特性論 | 主な特性論（オルポート、キャッテル、ギルフォード、アイゼンク等）について学び、特性論の短所と長所について理解する。 | 野田 昌道 |
| 4 | 人間 - 状況論争及び新相互作用論 | 人間 - 状況論争（パーソナリティの一貫性に関する論争）を概観し、なぜそのような論争が生じ、どのような影響をもたらしたのかを学ぶ。さらに、人間 - 状況論争の中で発展した、人と状況との相互作用を重視する新相互作用論について学ぶ。 | 野田 昌道 |
| 5 | 社会的認知論によるパーソナリティ理解 | ミッシェルの社会的認知論を中心に、社会認知的個人変数（符号化、予期と信念、感情、目標や価値、能力や自己制御）に関する研究を概観する。 | 野田 昌道 |
| 6 | ネオ特性論（5因子モデル、ビッグファイブ） | 人間 - 状況論争を経て発展した5因子モデル（ビッグファイブ）に関して学び、5因子に基づいた諸研究について知識を得る。 | 野田 昌道 |
| 7 | 精神力動的アプローチによるパーソナリティ理解 | 精神分析の局所論、構造論、防衛機制を学び、精神力動的観点から人間の行動を理解する。 | 野田昌道 |
| 8 | 現象学的アプローチによるパーソナリティ理解 | ロジャーズの現象学的アプローチやマクアダムスによるナラティブ・アイデンティティについて学ぶ。 | 野田 昌道 |
| 9 | 生物学的アプローチによるパーソナリティ理解（1） | 進化心理学的アプローチ（生物的準備性、性淘汰等）、遺伝的アプローチ（行動遺伝学、遺伝子と環境の相互作用等）によるパーソナリティの理解の仕方を学ぶ。 | 野田 昌道 |
| 10 | 生物学的アプローチによるパーソナリティ理解（2） | グレイ、クロニンジャーらによる神経心理学的アプローチ（脳、神経伝達物質等）によるパーソナリティの理解の仕方を学ぶ。 | 野田昌道 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|-----|---------------|--|-------|
| 1 1 | パーソナリティと発達（1） | 乳幼児期のパーソナリティの形成について、トマス&チェスのNY縦断研究、養育態度との関係を中心に学ぶ。 | 野田 昌道 |
| 1 2 | パーソナリティと発達（2） | アタッチメントパターン、アタッチメントスタイルとパーソナリティとの関連について学ぶ。 | 野田 昌道 |
| 1 3 | パーソナリティと発達（3） | ライフサイクル、エイジングの観点から、成人期のパーソナリティの安定、高齢期のパーソナリティの変容等について学ぶ。 | 野田 昌道 |
| 1 4 | パーソナリティと文化 | パーソナリティ形成に文化・社会が与える影響について、文化人類学、比較文化心理学、文化心理学からの知見を中心に学ぶ。 | 野田 昌道 |
| 1 5 | パーソナリティの病理と健康 | 外傷や病気などによるパーソナリティの病理的变化、不適応行動をもたらしやすいパーソナリティ、健康なパーソナリティ、心理臨床におけるパーソナリティの適応的变化について検討する。 | 野田 昌道 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

基本的に定期試験により評価する。授業後に理解度確認の課題を提示し、その達成状況を加点対象とする。

【教科書】

使用しない。

【参考書】

鈴木公啓編（2012）「パーソナリティ心理学概論 - 性格理解への扉」ナカニシヤ出版

杉山憲司・松田英子（2016）「心理学の世界基礎編9 パーソナリティ心理学 自己の探求と人間性の理解」培風館

榎本博明・安藤寿康・堀毛一也（2009）「パーソナリティ心理学 人間科学，自然科学，社会科学のクロスロード」有斐閣

【備考】

ICTを活用した授業行う。

- 1 . Google Classroomを利用して、適宜授業資料を配信する。
- 2 . Google Formを利用して、授業後に理解度確認のための課題を提示する。

【学修の準備】

本講義の内容は、臨床心理アセスメント演習、発達心理学、社会心理学などの他の科目での学習内容と有機的につなげて理解してもらいたい。他の科目ですでに学んだ事柄をもとに問題意識を形成し（予習1時間）、本講義の内容をもとにあらためて知識の整理・確認を行うこと（復習1時間）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

次のディプロマ・ポリシーに関連する講義である。

心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得する。